

ほけんだより



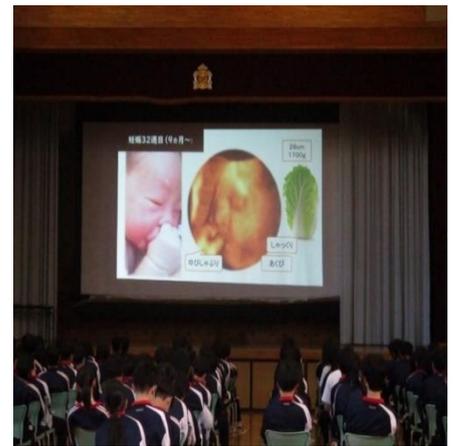
2026年 3月
忠生中学校 保健室

～いのちの授業～

3月4日(水)2・3・4時間目に、第3学年を対象に「いのちの授業」を行いました。町田市にある「としの助産院」院長の野口としのさんを講師にお招きし、いのちの大切さについての講話と体験学習を行いました。

☆講話の様子☆

今、私たちが生きていることはとても奇跡で尊いことであるか、さらに今まで家族はもちろんのこと、たくさんの方に支えられてきたことを改めて考えることができました。また、お母さんのお腹の中でいのちが宿り、1mmの卵子が成長してこの世に産声をあげる瞬間まで、どのようにして成長し、守られてきたかを学ぶことができました。



講話を聴いて心に残っていることは・・・ (生徒の感想)

- 自分たちが生まれて今ここにいることが奇跡だということを改めて感じる事ができた。子宮が卵くらいの大きさから赤ちゃんが入るくらいの大きさになるという話が衝撃的でとても印象に残った。赤ちゃんはへそのおから栄養をもらったり、羊水を飲んだりして頑張っているのだとかんじられた。
- 受精卵になる確率や無事に出生する確率を教えてもらい自分の存在が奇跡で、自分の親のもとに生まれてきてよかったなと思いました。とても大切な話を聞くことができて良かったです。

☆体験学習の様子☆

①妊婦ジャケット体験

妊婦ジャケットを装着し、「寝返りをする」「洗濯物を干す」「くつひもを結びなおす」などの動きを体験しました。



妊婦さんにとって大変なことは??(生徒の感想)

- 仰向けで寝るととても重かった。赤ちゃんのことを考えると動きが制限されるから大変だと思った。
- 寝返りも出来ないとか、常にお腹を気にして動かないといけないのが大変だと思いました。
- 下に落ちた物を拾うときや靴紐を結ぶ時に、下が見えづらいのでやりにくかった。

②赤ちゃん抱っこ体験・赤ちゃん親子交流



抱っこを体験した感想は？(生徒の感想)

- 頭に重心が寄っていないため、注意して抱っこすることをずっと考えながらするのは大変だなと感じた。自分が抱っこすると嫌がってしまうけど、お母さんに抱っこしてもらおうと落ち着いていて、家族の絆や人見知りなどの感情があるのも凄いと思った。
- 赤ちゃんは話すことができないから、赤ちゃんの細かい顔の変化などを意識して見ていくことが大切なんだと思った。
- 私には小さいところがたくさんいるから抱っこは何回もしたことがあったが、家族以外の小さな子はあまり触れたことがなかったので、抱っこするときに少し不安になった。でも、とにかく可愛かった。

③心音聴取体験

聴診器を使って自分の心臓の音を確認し、改めて生きていることを実感する体験を行いました。



自分の心臓の音を聞いて感じたことは??(生徒の感想)

- 自分の心臓の音を初めて聞いて不思議だと思いました。音が「どっくん」としっかり聞こえて、ずっと聞いていられるような音でした。
- 15年間休まず動きつづけているのがすごいと感じた。

最後に・・・

今年度のいのちの授業には、助産師の方々、保護者ボランティアの方々、地域ボランティアの方々、赤ちゃん親子ボランティアの方々、上田先生、小宮先生など、総勢40名の方々にご協力いただきました。皆様の温かいサポートのおかげで、授業を実施することができました。心より感謝申し上げます。

3年生はこれからそれぞれの道に進んでいきます。その道のりは決して楽しいことだけではないと思いますが、自分のこと(いのち)を大切に、そして家族・友達・周りにいるすべての人のこと(いのち)も大切に思う優しい気持ちをもって、生徒一人一人が自分の進むべき道をしっかりと歩んでほしいと思います。

(養護教諭 佐波)

